

# 1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	4075700221		
法人名	医療法人 輝寿会		
事業所名	グループホーム けいせん		
所在地 (電話番号)	福岡県嘉穂郡桂川町大字土居875番地1 (電話) 0948 - 65 - 4107		
評価機関名	株式会社 アーバン・マトリックス 評価事業部		
所在地	福岡県北九州市小倉北区紺屋町4-6 北九州ビル8階		
訪問調査日	平成21年8月6日	評価確定日	平成21年9月18日

【情報提供票より】(平成 21 年 7 月 1 日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 15 年 8 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	9人	常勤	9人, 非常勤 人, 常勤換算 9人

(2) 建物概要

建物構造	木造 造り	
	1 階建ての	1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	27,000 円	その他の経費(月額)	9,000 円
敷金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(50,000円)	有りの場合 償却の有無	無
食材料費	朝食	300 円	昼食 500 円
	夕食	500 円	おやつ 円
	または1日当たり 円		

(4) 利用者の概要 (7月1日現在)

利用者人数	9名	男性	2名	女性	7名
要介護1	1名	要介護2	3名		
要介護3	1名	要介護4	3名		
要介護5	1名	要支援2	名		
年齢	平均 83歳	最低	71歳	最高	91歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	社会保険稲築病院 ・ 桂川歯科医院
---------	-------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

国道200号線から少し外れた田園風景の中に「グループホームけいせん」は位置しており、徒歩圏内にはスーパーやドラッグストアのある、買い物の利便性にも恵まれた環境を有している。広い敷地の中には隣接して老人保健施設・通所介護事業所等があり、行事等を通じて交流が行われている。ホーム周辺の自然環境(川沿いの道・田んぼの畦道)は、入居者の方々にとっての絶好の散歩道となっており、散歩の途中や買い物先の店舗では、地域の方々との自然な交流が行なわれている。アセスメントにセンター方式を活用している介護計画には、認知症の方々の「心」を大切にしたいアプローチが多く記載されており、この事業所の特徴ともいえる。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回評価での課題については、同業者交流・介護計画の目標の期間設定等、一つ一つ改善に向けての取り組みが行なわれている。また内容についても、運営推進会議で報告がなされている。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	職員全員で各項目の意味を確認しながら、記載されている。日々のケアの再認識の機会としても、評価を活用している。
重点項目	運営推進会議の主な検討内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	2ヶ月に1回の定例で開催されている。ホームからは活動報告・避難訓練の報告・研修報告・外部評価の報告などが行なわれている。家族・町職員・地域包括センター職員・民生委員等の参加により、意見交換が行われている。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部8,9)
	意見箱・苦情相談窓口の設置などを行っている。家族の来訪時には意見や要望を聴くように努め、また意見の言いやすい関係づくりにも努めている。今年介護の日に合わせて家族に集ってもらい、交流会を行うように検討している。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	近所に民家が少なく、自治会とも距離があり、現在自治会加入は行っていない。隣接する老人保健施設やデイサービスとの行事交流や、保育園・中学校との交流は継続して行っており、入居者の楽しみとなっている。地域婦人会のボランティア訪問を受けている。散歩の途中や買い物に行った際など、地域の方々との日常的な交流がある。

2. 評価結果(詳細)

(   部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印 )	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念	地域密着型サービスとしての意義をふまえた、事業所独自の理念がつけられている。管理者・職員によってつけられた理念であり、いつも大切にしている言葉である。		
		地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている			
2	2	理念の共有と日々の取り組み	日々の申し送りや毎月の勉強会、会議の場所などで話し合い、理念の実践に向けて取り組んでいる。スタッフルーム等の目に付きやすいところに掲示している。		
		管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる			
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい	近所に民家が少なく、自治会とも距離があり、現在自治会加入は行っていない。隣接する老人保健施設やデイサービスとの行事交流や、保育園・中学校との交流は継続して行っており、入居者の楽しみとなっている。地域婦人会のボランティア訪問を受けている。散歩の途中や買い物に行った際など、地域の方々との日常的な交流がある。		
		事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている			
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用	昨年の外部評価については運営推進会議で報告を行い、改善項目として提案された内容には、一つ一つ取り組んでいる。自己評価についてもミーティングで話し合いを行い、項目ごとに内容を確認しながら、職員全員で取り組んでいる。		
		運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる			
5	8	運営推進会議を活かした取り組み	2ヶ月に1回の定例で開催されている。ホームからは活動報告・避難訓練の報告・研修報告・外部評価の報告などが行なわれている。家族・町職員・地域包括センター職員・民生委員等の参加により、意見交換が行われている。		
		運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている			

## グループホーム けいせん

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携	運営推進会議への参加以外にも、市町村担当者や地域包括支援センター職員とは、入居者の状況についての連絡や研修案内等、連絡を取り合う関係がある。		
		事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる			
7	10	権利擁護に関する制度の理解と活用	日常生活自立支援事業や成年後見制度について、毎月の勉強会等にて学ぶ機会を確保し、必要となった場合には活用に向けての支援ができるよう知識を深めている。外部で研修を受けた際には伝達講習をするようにしている。		
		管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人には、それらを活用できるよう支援している。			
4. 理念を実践するための体制					
8	14	家族等への報告	毎月「けいせんだより」を発行している。写真と手書きの報告により、ホームの暖かい雰囲気伝えていく。家族には訪問時の支払いをお願いしており、その際に生活状況や金銭出納などを報告するようにしている。		
		事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている			
9	15	運営に関する家族等意見の反映	意見箱・苦情相談窓口の設置などを行っている。家族の来訪時には意見や要望を聴くように努め、また意見の言いやすい関係づくりにも努めている。今年介護の日に合わせて家族に集まってもらい、交流会を行うように検討している。		
		家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている			
10	18	職員の異動等による影響への配慮	現在離職は殆ど発生していない。新職員が採用される場合は新旧職員が重複しての勤務を行い、習得伝達してもらうことで、入居者への影響が最小限となるよう配慮している。		
		運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている			
5. 人材の育成と支援					
11	19	人権の尊重	法人としての採用となる。年齢や性別は採用に際しては問題ではなく、現在も各年代の職員が勤務している。個人の能力を活かせるように、料理や裁縫など、それぞれの得意分野で活躍している。		
		法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している。			

## グループホーム けいせん

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
12	20	人権教育・啓発活動	市町村の研修に参加し、伝達講習をするようにしており、特に人権は介護ケアの本質に関わる事なのでこれからも大切に取り組んでいく予定である。高齢者虐待や身体拘束についても、学ぶ機会を確保している。		
		法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育・啓発活動に取り組んでいる。			
13	21	職員を育てる取り組み	ホームでの年間計画を作成し、職員研修に取り組んでいる。待遇・感染症・医療制度などの内容が確認できる。資格取得への支援も行われており、勤務時間等の配慮が行なわれている。今後は外部研修への積極的な参加にも期待したい。		
		運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている			
14	22	同業者との交流を通じた向上	地域内のグループホームとの連携により、職員だけでなく入居者も交流の機会をもっている。勉強会の開催もあり、サービスの向上に向けて取り組んでいる。		
		運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている			
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
2. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	28	馴染みながらのサービス利用	入居前には自宅を訪問するなど、本人・家族との馴染みの関係づくりとともに、十分に話し合いが行なわれている。時には居室を準備し、時折訪問してもらいながら徐々に慣れてもらうなどの取り組みも行なわれている。個別の状況に柔軟に対応しながら、馴染みの関係づくりが行なわれている。		
		本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している			
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	29	本人と共に過ごし支えあう関係	農作物の棚作りをする時には紐の結び方を教えてくれたり、草取りの際には、草と花などを区別する方法などを職員は学んでいる。一生懸命に教えてくれる入居者と、真剣に習う職員が共に過ごす時間を大切にしている。		
		職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている			

## グループホーム けいせん

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
17	35	思いや意向の把握	入居者の生活歴を、本人・家族から伝えてもらい、全体像の把握に努めている。また日々の暮らしの中で、希望や意向を聞き取り、自分の思いを表現できない方には表情や行動からその真意を汲み取り、本人本位に検討している。アセスメントにセンター方式を活用している。		
		一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している			
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	38	チームでつくる利用者本位の介護計画	アセスメントにセンター方式を取り入れ、本人や家族の希望の把握に努めている。認知症の方の精神面を重視した介護計画が特徴的である。本人・家族に問いかけながら意向を確認し、職員間で話し合いを行い、介護計画作成となっている。		
		本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している			
19	39	現状に即した介護計画の見直し	毎月のスタッフ会議で計画の実施状況を確認し、3ヶ月に1回見直しを行なっている。心身の状況の変化に応じて、その都度見直すように取り組んでいる。		
		介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している			
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
20	41	事業所の多機能性を活かした支援	系列法人の老人保健施設、通所介護との連携により、管理栄養士の助言を得たり、年に2回ある施設行事に参加している。受診についても希望があれば対応している。		隣接する施設や歯科医院との更なる連携により、多様な専門的知識を、日々のケアや研修等に活かしていくことも検討してみてください。
		本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている			
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
21	45	かかりつけ医の受診支援	本人・家族の意向による、これまでのかかりつけ医を大切にしている。受診に同行した場合には、家族との情報の共有に努めている。協力医療機関との連携により、入居者・家族の意向に応じて、受診の支援を行っている。		
		本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している			

## グループホーム けいせん

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
22	49	重度化や終末期に向けた方針の共有	入居時に説明を行い、本人・家族の意向を重視している。状況の変化に応じて、家族との話し合いを重ね、事業所として出来る限りの支援を今後も行いたいと考えている。重度化や終末期の対応については、今後も継続して検討していく大切な課題として捉えている。		
		重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している			
<b>. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
23	52	プライバシーの確保の徹底	日々の会話や対応について、人格や尊厳を守るよう努め、職員間で確認しあっている。個人ファイルは施錠できる棚に保管し、管理している。		
		一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない			
24	54	日々のその人らしい暮らし	ホームの1日の予定はあるが、その日の本人の意向やペースに合わせて支援するようにしている。睡眠のタイミングがずれている方には、食事の時間など、その目覚めているタイミングに合わせて柔軟に支援している。無理強いはいしない。		
		職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している			
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	56	食事を楽しむことのできる支援	一部は配達をしてもらっているが、入居者と一緒に近くのスーパーまで食材の買い物に出かけている。入居者の状況に合わせて手伝ってもらい、「私の仕事だから」と手馴れた様子で、嬉しそうにお盆を拭いている姿があった。		
		食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている			
26	59	入浴を楽しむことができる支援	日中の入浴を基本としているが、個々のタイミングを大切にしており、柔軟に対応している。拒否される方は何か理由があると常に考えており、一人ひとりの事情を考察して十分に理解し、寛いで入浴できるよう支援している。		
		曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している			

## グループホーム けいせん

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	61	役割、楽しみごと、気晴らしの支援	生活に主体性を持ち、趣味・特技を活かすなど、様々な場面で活力を持ってほしいと考えている。レクレーション・ゲーム・計算問題を解く・字を書くことが好きな方など、個人の楽しみごとを見つけて支援している。散歩や買い物も日常的に行われており、気晴らし支援になっている		
		張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている			
28	63	日常的な外出支援	ホーム周辺の川沿いの道や田の畦道が絶好の散歩コースとなっており、日常的に出かけている。また近くのドラッグストアやスーパーに買い物に行く際には、一緒に出かけており、店員とも馴染みの関係がある。		
		事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している			
(4) 安心と安全を支える支援					
29	68	鍵をかけないケアの実践	日勤帯は表玄関、他出入り口も施錠していない。施錠の弊害については理解しており、センサーの設置や職員の見守りの徹底、状況の把握により、安全面に配慮しながら自由な暮らしを支援している。		
		運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる			
30	73	災害対策	年に2回避難訓練を行っている。連絡網の掲示や緊急時の隣接する施設の協力連携体制も整備されている。近くに民家が無いので地域住民の協力は得難いが、地域消防団との協力体制を計画している。		
		火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている			
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
31	79	栄養摂取や水分確保の支援	管理栄養士の作成する献立があり、食事摂取量・水分量などを記録し、健康管理に役立てている。ミキサー食・刻み食など身体の状況に合わせて対応している。経口からの摂取を大切にし、医師と相談しながら栄養補助食品なども利用している。		
		食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている			

グループホーム けいせん

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
32	83	居心地のよい共用空間づくり	以前は医院として使用されていた室内は清潔感があり、明るい色調の木質の内装や家具により、温もりを感じる空間となっている。四季折々の花や、入居者の手づくり作品などが壁を飾り、またキッチンからは調理の音や匂いを感じ、季節感や生活感が感じられる空間となっている。ソファの配置等により、くつろげる場所を確保している。		
		共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている			
33	85	居心地よく過ごせる居室の配慮	使い慣れた家具やテレビが持ち込まれており、居心地のよさに配慮がなされている。趣味や特技を活かした作品が飾られており、個別性を感じる。		
		居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている			